

ビジネスの分野ではヒト、モノ、カネ、情報などを「経営資源」とみなして、その有効活用が会社を成長させるために大切だと考えられています。市民活動も団体を育て、持続的な活動をしていくために「活動資源」をどう活かしていくか?という視点が大切です。前回に引き続き「ヒト」に注目して解説します。

仲間の輪を広げる3つの仕掛け

自分たちの活動を育てていくためには、関わってくれる人の輪を広げていくことが大切です。しかし、「なかなか一緒に活動してくれる仲間が増えない」という悩みは絶えません。企業活動を見るとわかりやすいですが、会社の商品やサービスを売る「宣伝」と、働く人を探す「採用活動」は別物ですよね?市民活動においても、一緒に活動する仲間を集めるためには、イベントや通常活動とは別の取り組みが必要です。仲間を集めるためには、次の3つを準備することをおすすめします。



① 定期的な共同作業の場

ポイントは「定期的」。学校や会社でもそうですが、友だちは定期的に顔を合わせる関係の中で生まれるものなので、なるべく気軽に集まる機会があることが大切です。会議やお茶飲みなどでもいいですが、みんなが手伝える作業があった方が初めての人でも気軽に参加できます。参加者が、「手伝っている」「役立っている」と思える作業を用意しましょう。

共同作業の例 ゴミ拾いや清掃、農作業、物品整理、発送物の封筒入れ作業など

② 協力の声かけ

①に参加してくれる人を集めましょう。その際には、企業が採用活動の時に会社の特徴や目指す未来をPRするのと同じように、市民活動でも活動の目的やビジョンなどをまとめたパンフレットやチラシなどがあると声かけがしやすいですね。事前に用意しておくことをおすすめします。

③ 活動の手応えや意義を感じる機会

わかりやすいのは対外的なイベントの開催ですが、メンバーそれぞれにふさわしい役割を与えること、みんなで活動を振り返ることも有効です。任される作業が増えていき最終的にコアメンバーになったり、みんなで活動の意義を共有したりすることで、団体への愛着がアップします。

目的の達成だけではなく、そこに集まったヒトで何ができるのか?を考えながら、活動を育てていきましょう。

この団体ができること

私たち、「障がい児ママサポートかけはし〜長岡〜」は障がい児支援に関する情報の提供ができます!

私たちは、障がい児ママが心に余裕をもって子育てできることが障がい児支援につながると考え、ママたちのサポートをしています。「アロマタッチ&交流会」や「アーティストと子どもたちの共同作品づくり」など、コラボ企画も行っています。



協力してほしいこと

私たちの団体を応援したり、サポートしてくれる方を募集しています。

活用しよう! 協働マッチングリスト

市民活動団体の「協力できること」「協力してほしいこと」をまとめたリストです。リストを開けば、助けになる団体、または力になれる団体がきっと見つかります!



センターからのお知らせ

長岡市未来を創る
市民活動応援補助金

イベントの
申請受付再開につき
再度お知らせ!

長岡の未来を考え、その実現に向けて市民団体などが主体的に取り組む公益的な事業にかかる経費の一部を補助する「長岡市未来を創る市民活動応援補助金(未来共創補助金)」。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から一時的にイベントの申請受付を中止していましたが、国及び県が示すガイドライン等の基準にしたがって実施するものに限り受付を再開しました!やってみよう企画をお持ちの方は、協働センターまでご相談ください。

申請方法

事業実施の3ヵ月前を目安に申請書を協働センターへ提出してください。

補助金額 補助対象経費について

10万円まで

10万円を超える部分

全額

80%

※補助対象になる事業は、今年度中に完了するものに限りです。
※補助金額の上限は50万円です。

詳しい
概要は
コチラから



協働センター

Q&A

よく寄せられる
ご相談

Q.活動の手伝いをお願いしても断られてしまいます。

A.頼まれごとは、気軽に引き受けたらあとが怖いと誰もが思うもの(笑)。そんな時は、手伝ってもらいたい内容を具体的に伝えましょう。「それくらいなら…」とってもらえるハードルの低い作業を用意するのがおすすめです。

Q.メンバーが辞めていってしまいます。

A.市民活動では活動を通して得たいものは人それぞれなので、メンバーに合わせて方向性や内容を常に調整していくことが不可欠。メンバーが団体に関わる理由や、何に喜びや充実を感じるのかを聞いてみましょう。

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

要チェック!タイムリーな情報と協働センターの日常



@NkyodoCenter



@nagaoka_kyodo



@mytown0258

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌



Racotte
vol.95

発行 ながおか市民協働センター

2020
11
FREE

今月のインタビュー

地域を盛り上げる宴会部長

船場永喜さん

活動地域
和島



活動分野 | 文化芸術

団体での役割 | 代表

特技 | 宴会芸

嫌いな食べ物 | 桃

「虹の家」の優しい守り人

嶋影優子さん

活動地域
中之島



活動分野 | 社会福祉

団体での役割 | 施設長

特技 | 中国語

よく行く場所 | 城跡、神社仏閣

活動PickUp!

- 長岡市立栖吉中学校
- 長岡太極拳協会
- 川躍鼓
- 長岡信用金庫

市民活動・虎の巻

市民活動の活動資源『ヒト』編 vol.2
～仲間の輪を広げる3つの仕掛け～

この団体ができること

私たち、「障がい児ママサポートかけはし〜長岡〜」は障がい児支援に関する情報の提供ができます!



毎週月曜日17時頃から放送中!

つながるラジオ

ながおか市民活動 紹介番組 FMながおか 10分程度放送 第5月曜日を除く



ながおかの市民協働のポータルサイト

コライト、見ないと!

協働センターのホームページ「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。このページのバックナンバーも閲覧できます。

https://nkyod.org

コライト

地域をよくするウワサのあの人にインタビュー！
活動に込める気持ち、これまでのいきさつ、組織での役割……。根掘り葉掘りお聞きしました。

ふなば えいき
船場 永喜さん(78歳)
元自営業／版画・鎌倉彫サークル

1942年青森県生まれ。高校卒業後に上京して電器屋に就職し、30代前半で「せんば電器」を開業した。2014年に和島へ移住。

子育ての駅わくわくで手作りのフリップ芸やバルーンアート、マジックなどを披露して子どもたちを楽しませています。



活動の根っこ
自分の生きている所を
自分のものにする 船場永喜

趣味や特技で地域に笑顔を 自分の住んでいるところを一番にする！！

「人を楽しませることが好きなんです」と宴会芸を披露する船場永喜さん。ふなばより「せんば」の方がゴロが良いと、「せんちゃん」の愛称で親しまれています。

東京都荒川区で35年間「せんば電器」を営んだ船場さんは、2014年に奥さんの故郷の新潟へ移住。「近所にはコンビニや居酒屋がなくてびっくりした」と移住1年目は新しい生活に慣れるのに苦労されたそうです。もともと色々な人と関わるのが好きな船場さんは、地域になじむために誘われたら断らずに、町内の行事やイベントに積極的に参加。しかし、それまでの生活環境の違いから話がかみ合わないことが多かったそうです。

そんな中、以前趣味でしていた版画や鎌倉彫を再び始めると、和島の生涯学習フェスティバルへの作品出展の声がかかりました。多くの作品で会場が盛り上がっていることに感激し、「自分も地域を盛り

上げる活動がしたい」と、版画、鎌倉彫のサークルを始めました。船場さんが先生で、参加者が生徒。最初は教えることを意識しすぎて思い描いた楽しい雰囲気を作れず、方向性を見直したそうです。「教えるよりアドバイス。参加者がおしゃべりしながら楽しむコミュニティと一緒につくることを意識しました。そうすることで自分自身も楽しみ、教室の雰囲気も良くなりました」。雰囲気づくりに始めた宴会芸は好評。なんと、宴会芸で盛り上げてほしいと声をかけてくれた地域のお茶の間クラブや子育ての駅からも声がかかり、フリップ芸やバルーンアートなどを披露するようになりました。

「移住した当初は、自分に色々な活動ができと思わなかった。生活しているところを自分のものに、自分の住んでいるところを一番にしたいです。移住して夢が広がりました」。今後も趣味や特技を活かして、地域に笑顔と元気を届けてくれるでしょう。

十人十色のみんなでつくる 違いを受け入れ支え合うまち

就労継続支援や障がいのある方に日中活動の場を提供しているデワークス中島。その施設長が、あふれる優しさと温かさで利用者の方やスタッフを包み込む嶋影優子さんです。

前職では、歯科医院の受付をしていた嶋影さん。そこで、障がいをもっている患者さんの対応をしたり、歯科検診で障がい者施設を訪れたりしているうちに「彼らの役に立ちたい」と思うようになり、ヘルパーの資格を取得しました。そんな折、虹の家の前身である家族会の求人を見。「迷いましたが、知り合いからの『自分はどうしたいの?』という言葉で、私は障がい者福祉の道に進みたいのかもしれないと気づき、10年以上勤めていた歯科医院を辞め、現在の職に就きました」。

デワークス中島では、平日は就労訓練を、週末は運動や余暇活動を行っています。「一生懸命働いたら、一生懸命遊ぶ」ことを大切に、メリハリのあるサービスを提供。「利用者の方に広い世界を見せて

あげたい」と、新型コロナウイルス感染症流行前は、希望を聞いて一緒に旅行に行ったり、留学生と交流したりしたこともあったそう。こうした利用者目線の支援は、着実に実を結んでいます。「家から出られなかった利用者の方が少しずつ施設に通えるようになり、最終的に就職につながったときは、とても嬉しいです」。

障がい者福祉の道を歩み始めてから17年。嶋影さんの活動を支えているのは、「人としてみんなが受け入れられ、一緒に暮らせるまちをつくりたい」という想いです。「ゲームをすれば『楽しい』と言い、お菓子を食べれば『おいしい』と言う。みんな、感じるものは一緒。ここで働く前から、年齢や性別、国籍の違いは重要ではないと思っていましたが、今は、障がいの有無も含めた違いをみんなで受け入れていけたらいいなと思っています」。嶋影さんのこの願いは、活動を通じてたくさんの人の心に届いています。

嶋影 優子さん(53歳)
特定非営利活動法人 虹の家

1967年長岡市生まれ。虹の家の運営するデワークス中島島の施設長。活動を応援してくれている人々への感謝を胸に、日々利用者の方たちと向き合っている。

●2019年5月に、利用者の方とスタッフで行った一泊二日の大阪旅行。みんなで念願だった飛行機に乗り、コテコテの大阪を満喫しました。




活動の根っこ
やさしくつよく
はげやかに
嶋影 優子

活動PickUp!

生の声は「ラジオ」「コライト」で！
「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

長岡
長岡市立栖吉中学校
今だからこそ考えるSDGs

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できない職場体験学習に代わり、学校に企業や団体の方を招いて「今だからこそ考えるSDGs『キャリア教育特別授業』」を行っています。生徒は、SDGsとは何かを学び身近なものにする。そして、企業や団体の方から話を聞き、自分にできる「My SDGs」を考えます。今後は企業の方にプレゼンを行い、地域へのアクションを考えていきます。



川口
川躍鼓
川口地域から躍動ある和太鼓を届けたい

「川口地域から躍動ある和太鼓を届けたい!」という想いで2019年9月に設立した和太鼓の演奏をしている団体です。2020年9月に初めてイベントで演奏を披露しました。今後は、川口地域はもちろん、各種イベントに出演し、川躍鼓の太鼓を観て聴いて元気になってもらえるように活動していきたいです。Instagramで活動を紹介しているので、「kawayakko」で検索してみてください。



長岡
長岡太極拳協会
心も身体もゆったり元気に

太極拳は、楽しみながら健康づくりができるだけではなく競技として極めることもでき、老若男女を問わず誰もが楽しめる生涯スポーツです。長岡太極拳協会は、現在3つの団体で構成され、370名の会員が所属しています。太極拳の普及・発展のため長岡まつりなど地域イベントでの実演や、健康で明るい生活のため各地域で太極拳の指導を行っています。これからも楽しく太極拳を続けていきたいです。



長岡
長岡信用金庫
モットーは「Face to Face」

長岡信用金庫は、地域の中小企業を支える金融機関として1913年に創業し、2020年で100年目を迎えます。創業85周年から、地域への助成活動として毎年車いすなどの物品を寄贈。創業100周年には、環境分野で活動している地元のNPO法人と一緒に関原地区で森づくりを始めました。毎年100名以上の職員が植樹と育樹に参加し、今では立派な「森」に成長しました。今後も地域貢献を続けていきます。



みんなの声
投稿テーマ 「長岡みんなのSDGs」
投稿方法 投稿フォームを使う QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。 協働センター窓口で投稿する 協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

投稿者 GoGoアルビ! さん

SDGsに関する詳細は、2020年度らって4月号の「虎の巻」をご覧ください。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の目標「SDGs」に関する投稿を掲載しています。

私の取り組みは「SDGsを発信すること」です。FacebookやTwitter、Instagramで記事を投稿しています。そのためには自分がSDGsについて詳しく知らないといけないので、日々勉強勉強です。このコーナーも参考にさせてもらってマーズ^^